

## 三朝西小学校での「地域の自然を利用した放射線教育」の実施要領

鳥取大学工学部物質工学科 技術職員 中村麻利子

私たちの周りには天然の放射能がたくさんある。それらは食べ物の中や大地の中にあったり、宇宙からもやってきている。また放射線は、私たちの生活にもいろいろ利用されている。しかし、放射線・放射能といえば何かわけのわからない怖いものと思われがちである。これは、日本ではそれらについて学校教育で学ぶ機会が少なく正しい知識が得られないためと思われる。

鳥取県にはラジウム温泉として有名な三朝温泉があることに着目し、この温泉水を用いて放射線の不思議さを子供たちに体験させるための実験法の開発を行った。開発した実験法を文部科学省が開催している小、中および高校の教職員等を対象とした原子力体験セミナー、鳥取大学で行った子どもたちのための楽しいものづくり技術学講座\*、およびとっとり花回廊\*\*で開催された実験教室で実践したところ好評を得ることができた。(\*、\*\*の様子は次ページに紹介している)

今回は、三朝温泉の地元小学校で放射線教育の授業を計画したところ、**10**月に広島への修学旅行を企画している三朝西小学校の協力をいただけることとなった。子どもたちは原爆ドームでの学習に備え、自分たちで放射線について調べたりしているようである。今回の授業で、実際に放射線を測ったり見たりすることにより、さらに子どもたちの理解が深まることを期待している。

本研究は、文部科学省平成 **15** 年度科学研究費補助金 奨励研究(中村麻利子 **15915033**)を受けて行ったものである。

実施責任者： 鳥取大学工学部物質工学科 技術職員 中村麻利子

協力者： 浅原(教務職員)、畠山(D2)、長尾(D2)、大槻(M1)

開催日時： 平成 15 年 9 月 19 日(金) 13:00~16:00

開催場所： 三朝町立三朝西小学校

対象： 三朝西小学校 6 年生 49 名

